

### 13. フリオの2度目の情熱<sup>どめ じょうねつ</sup>

大学生<sup>だいがくせい</sup>のフリオはサッカー選手を目指<sup>めざ</sup>していましたが、交通事故<sup>こうつうじこ</sup>で大けが<sup>おお</sup>をして、夢<sup>ゆめ</sup>を諦<sup>あきら</sup>めなければなりません。しかし、そんな中<sup>なか</sup>、フリオはギターと出<sup>で</sup>会<sup>あ</sup>います。そして、フリオは・・・。

スペインのマドリードの少年<sup>しょうねん</sup>、フリオが初<sup>はじ</sup>めて好<sup>す</sup>きになった少女<sup>しょうじょ</sup>の名前<sup>なまえ</sup>はマリアでした。フリオは「アベ・マリア(Ave Maria)」が歌<sup>うた</sup>いたくて、教会<sup>きょうかい</sup>の聖歌隊<sup>せいかたい</sup>に入<sup>はい</sup>ろうとしました。しかし、教会<sup>きょうかい</sup>の司祭<sup>しさい</sup>は、彼<sup>かれ</sup>の歌<sup>うた</sup>を聞<sup>き</sup>くと、「君<sup>きみ</sup>は歌<sup>うた</sup>うよりサッカーをした方<sup>ほう</sup>がいいよ」と言<sup>い</sup>って、フリオを聖歌隊<sup>せいかたい</sup>に入<sup>い</sup>れませんでした。

フリオは子<sup>こ</sup>どもの頃<sup>ころ</sup>からサッカーが好<sup>す</sup>きだったので、その後<sup>ご</sup>は、ますますサッカーに熱中<sup>ねっちゅう</sup>しました。彼<sup>かれ</sup>はいつも人々<sup>ひとびと</sup>の中心<sup>ちゅうしん</sup>に居<sup>す</sup>るのが好きでした。そこで、サッカーでもゴールキーパーを選<sup>えら</sup>びました。



学校のサッカーチームでは、フリオは、自称「学校の歴史の中で一番のゴールキーパー」でした。大学でも法律を学びながら、サッカーを続けました。そして、世界で最も有名なサッカーチームの一つであるレアル・マドリードの青年チームに入ることができたのです。

フリオは、プロのサッカー選手として、将来が期待されるようになりました。しかし、そんな時突然、彼のサッカー人生は終わってしまいました。20歳の誕生日の前の夜、交通事故で大けがをしたのです。この事故で背骨の神経が傷つき、フリオは胸から下の感覚がなくなってしまうました。その状態から回復して、再び歩けるようになるまでに2年かかりました。

フリオにとっては最も不幸な日々でした。しかし、看護師からもらった1本のギターがフリオを救いました。看護師は、ギターの練習をすると指に力が付くと考えたのです。ギターを弾きながら、フリオは短い曲や歌詞を書き始めました。初めのうち、フリオの観客は父親と母親だけでした。フリオは二人に、「僕はいつか、大きな音楽祭で歌うよ」と言っていました。

1968年、25歳のフリオは、実際にスペインのベニドルム音楽祭で優勝しました。そして、その時の歌、自分で作詞作曲した「人生

は同じように<sup>おな</sup>続く<sup>つづ</sup>(La Vida Sigue Igual)」で、プロの<sup>かしゅ</sup>歌手としてデビューしました。フリオのデビュー<sup>きょく</sup>曲はスペインの<sup>おんがく</sup>音楽チャートで1位になり、多くの<sup>おお</sup>国民に<sup>こくみん</sup>愛される<sup>あい</sup>大スターになりました。その後、フリオの<sup>うた</sup>歌がスペインだけでなく、世界中の<sup>せかいじゅう</sup>国々で<sup>くにぐに</sup>愛される<sup>あい</sup>ようになったことは、<sup>みな</sup>皆さんが<sup>ぞん</sup>ご存じの<sup>とお</sup>通りです。

フリオ、すなわちフリオ・イグレスias(Julio Iglesias)は 14<sup>か</sup>カ<sup>こくご</sup>国語で 80枚以上の<sup>まいいじょう</sup>アルバムを出し、世界中の 600都市で 5,000回<sup>かい</sup>のコンサートを行<sup>おこな</sup>い、3億枚以上の<sup>おくまいいじょう</sup>レコードが<sup>う</sup>売れました。3億枚<sup>おくまい</sup>というのは、ビートルズ(The Beatles)、エルビス・プレスリー(Elvis Presley)、マイケル・ジャクソン(Michael Jackson)の<sup>つぎ</sup>次に<sup>おお</sup>多い<sup>きろく</sup>記録です。フリオは、「世界で<sup>せかい</sup>最<sup>もっと</sup>も<sup>う</sup>売れたラテンシンガー」としてギネスブックに<sup>きろく</sup>記録されています。

「<sup>はじ</sup>初めてギターを弾いて、<sup>わたし</sup>私<sup>おんがく</sup>は<sup>し</sup>音楽を知った。そして、<sup>おんがく</sup>音楽への<sup>じょうねつ</sup>情熱が<sup>わたし</sup>私の<sup>じんせい</sup>人生になった」と、フリオは<sup>あと</sup>後に<sup>い</sup>言っています。サッカーから<sup>おんがく</sup>音楽へ。フリオの二つの<sup>じょうねつ</sup>情熱の<sup>あいだ</sup>間には、<sup>こうつうじこ</sup>交通事故による<sup>おお</sup>大けがとの<sup>たたか</sup>闘いがありました。

フリオの<sup>うた</sup>歌には<sup>あい</sup>愛の<sup>うた</sup>歌が多いのですが、<sup>じんせい</sup>人生を<sup>うた</sup>歌ったデビュー<sup>きょく</sup>曲には、<sup>おお</sup>大けがとの<sup>たたか</sup>闘い<sup>か</sup>が描かれています。

くる よろこ たたか へいわ じんせい い りゆう  
「苦しみと喜び 戦いと平和 人生にはいつも生きる理由がある  
たたか りゆう  
戦う理由がある」

じんせい おな つづ  
(「人生は同じように続く」より)

## 単語リスト：

聖歌隊（せいかたい）Đoàn hát thánh ca  
司祭（しさい）Linh mục  
自称（じしょう）Tự xưng  
救う（すくう）Cứu  
音楽祭（おんがくさい）Lễ hội âm nhạc  
デビュー Làn biểu diễn đầu tiên trong sự nghiệp (ra mắt)

音楽チャート（おんがくチャート）Bảng xếp hạng âm nhạc  
すなわち Tức là  
ラテンシンガー Ca sỹ châu Mỹ La tinh  
ギネスブック Sách Guinness  
情熱（じょうねつ）Lòng nhiệt tình  
描く（えがく）Vẽ nên